

日本の特別支援教育の現状と 指導する教員の課題 ～国立韓国体育大学～

2016.10.31

社会福祉法人明日佳顧問

社会福祉法人長沼陽風会顧問

一般財団法人小野寺眞悟障がい者スポーツ振興会事務局長

鈴木重男

通訳 江原明震学校教諭

李政翰

HOKKAIDO 北海道

WAKKANAI

ASAHIKAWA

SAPPORO

OBIHIRO

ABASHIRI

KUSHIRO

HAKODATE

2016年度 北海道の特別支援教育の概況

◎特別支援学校 学校数72校 在籍者5,672名

◎特別支援学級 学級数3,864学級 在籍者12,168名

◎通級指導教室数 教室数346教室 在籍者44,575名

北海道

面積 83,550km²(韓国の約8割)

人口 550万人 (韓国の約1割)

SHIRETOKO

고구마



HIGUMA



概 要

- 1 日本の特別支援教育の現状
- 2 指導する教員に係る課題
- 3 特別支援教育の原点

日韓知的障がい者サッカーフェスティバル

in SAPPORO

2009年8月22日(土)

～ 札幌厚別公園競技場が熱くなる ～

入場無料



VS



日本代表チーム
日本代表(北海道)

韓国代表チーム
韓国代表チーム

みんなで一緒に日韓戦を応援しよう!



2009年8月22日

試合開始11時00分 Kick off

場所：札幌厚別公園競技場

主催：日本ハンディキャップサッカー連盟

特定非営利活動法人 日本知的障害者サッカー連盟

主管：北海道チャレンジドサッカー連盟

協力：財団法人 北海道サッカー協会



韓国慶尚北道安東市(2008. 8. 22)

한일 선수 여러분!

그 동안 연마한 기량을 마음껏 발휘하시고, 같은 꿈을 향해 열정을 불태우는 선수들과
우정을 다지는 즐거운 자리가 되길 바랍니다.

다시 한 번 대회준비를 위해 수고하신 관계자 여러분들의 노고에 거듭 감사드리며,
특히 보이지 않는 곳에서 열과 성을 다해 성공적인 대회 운영을 위해 묵묵히
지원해주시는 자원봉사자 여러분께 감사의 말씀 드립니다. 감사합니다.



2009 년 8 월 22 일

대한지적장애인스포츠협회

회 장 김 원 경(金 源 慶)

1 日本の特別支援教育の現状

日本の学校教育対象の障害種

視覚障害

聴覚障害

知的障害

肢体不自由

病弱・身体虚弱

言語障害

情緒障害

自閉症

学習障害

注意欠陥多動性障害

特別支援教育の対象の概念図(義務教育段階)

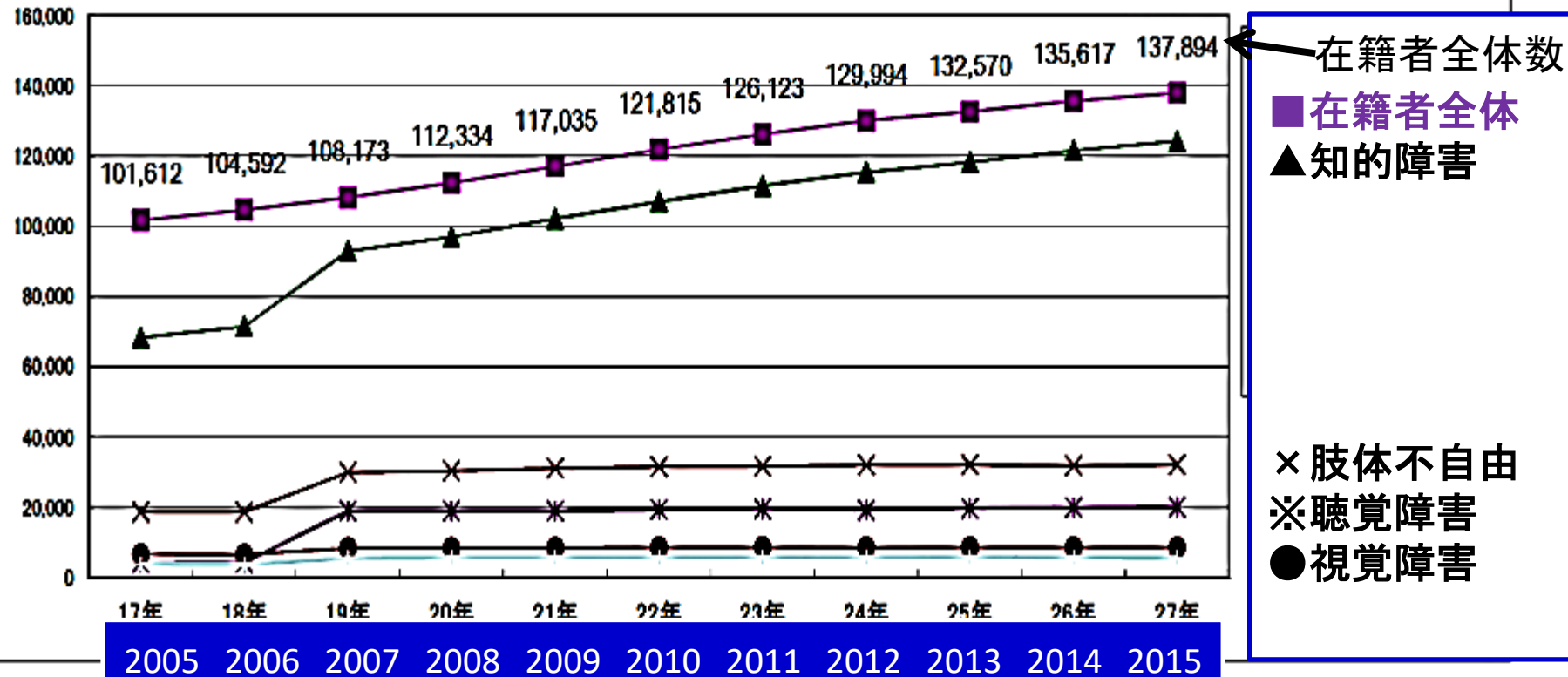
2015年5月1日現在、義務教育段階の全児童生徒数は減少傾向。
特別支援教育の対象児童生徒数は増加傾向。



特別支援学校の現状

(幼稚部・小学部・中学部・高等部在籍者の推移)

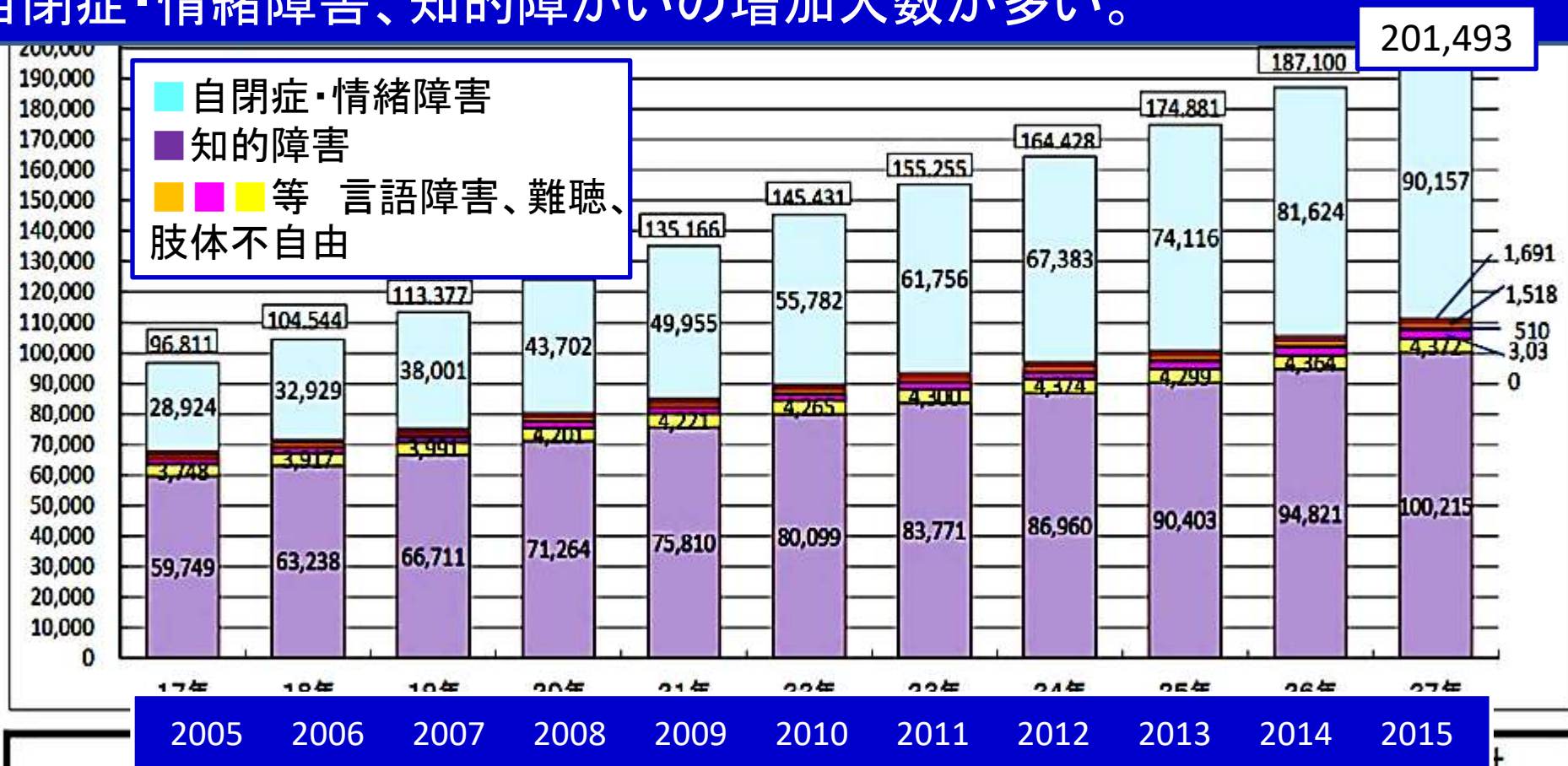
2015年5月1日現在、特別支援学校在籍者数全体は増加傾向。
知的障がいの増加人数が多い。



	視覚障害	聴覚障害	知的障害	肢体不自由	病弱・身体虚弱	計
学校数	83	118	745	345	145	1,114
在籍者数	5,716	8,625	124,146	32,089	20,050	137,894

特別支援学級の現状

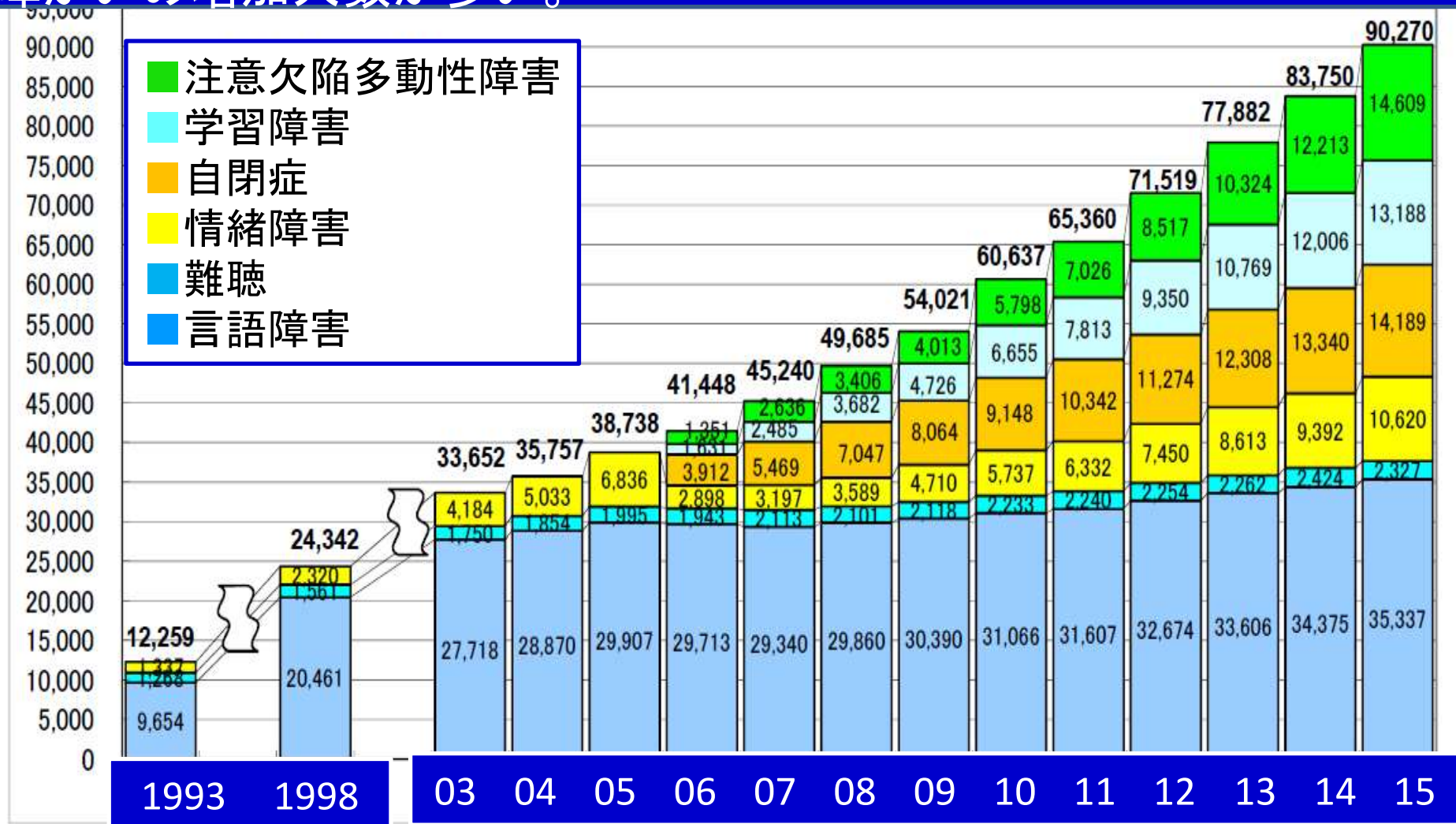
2015年5月1日現在、特別支援学級在籍者全体は増加傾向。
自閉症・情緒障害、知的障害の増加人数が多い。



	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
					身体虚弱					情緒障害	
学級数	25,432	2,846	1,792	440	996	589	22,491	54,586			
在籍者数	100,215	4,372	3,030	510	1,518	1,691	90,157	201,493			

通級による指導の現状

2015年5月1日現在、通級による指導を受けている児童生徒全体は増加傾向。注意欠陥多動性障害、学習障害、自閉症、情緒障害、言語障がいが増加人数が多い。



特別支援教育を推進する国家推進ツール

特別支援教育コーディネーター

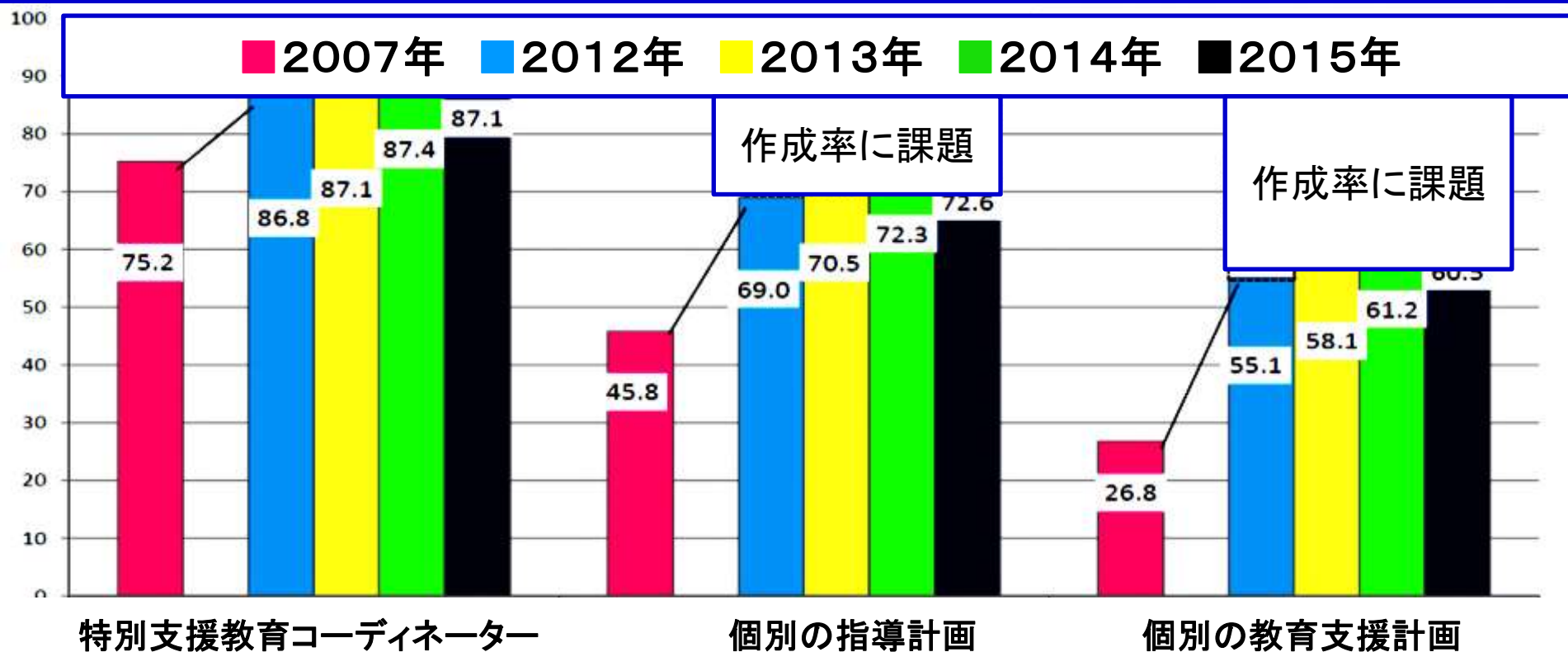
学校内の関係者や福祉・医療等の関係機関との連絡調整及び保護者に対する学校窓口として、校内の特別支援教育に関するコーディネーター的な役割を担う者

個別の指導計画 学習指導要領で作成が規定。

障害児一人一人について、指導の目標や内容、配慮事項などを示した計画

個別の教育支援計画 学習指導要領で作成が規定。

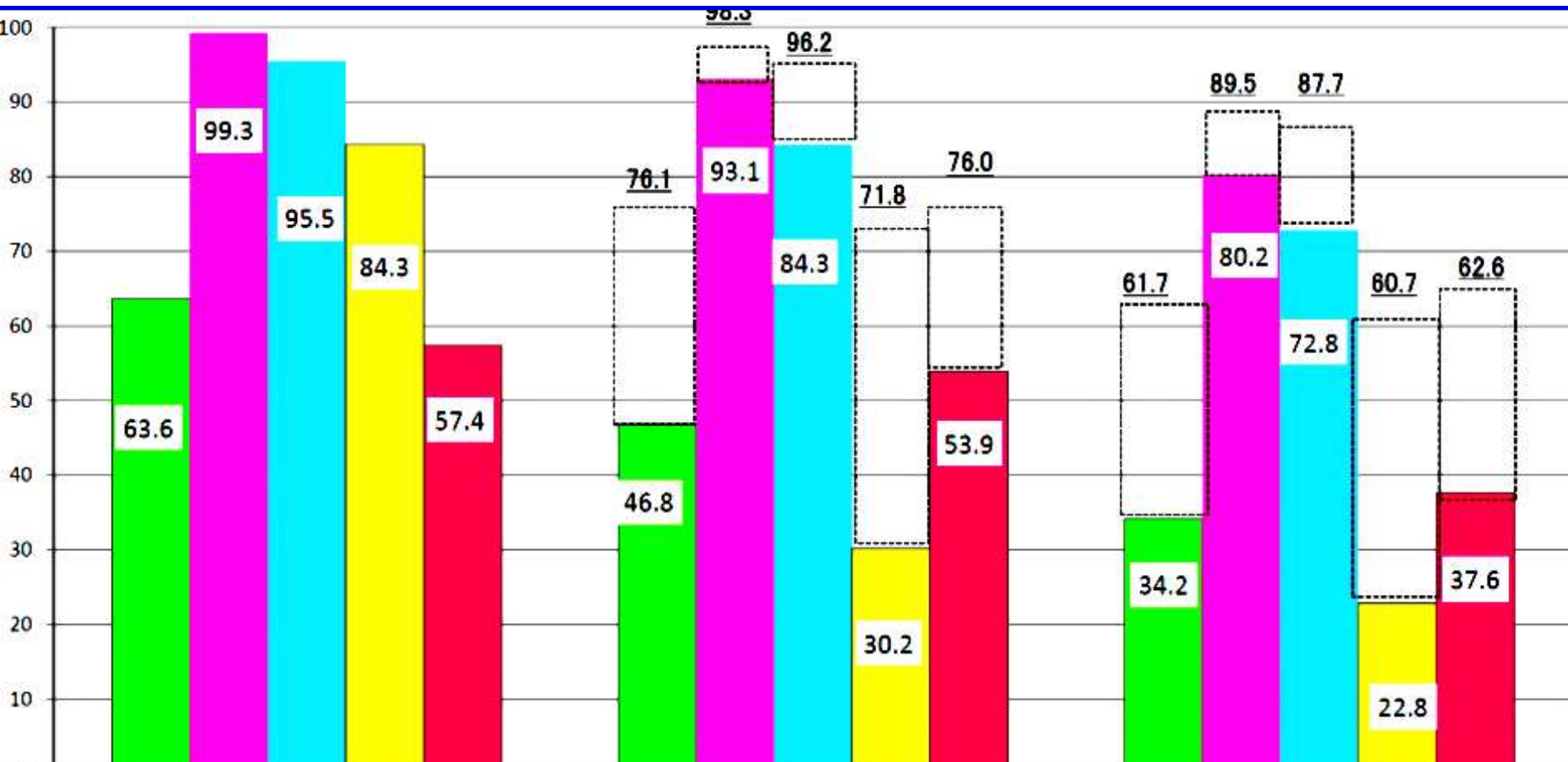
家庭や医療機関、福祉施設などの関係機関と連携し、取組を示した計画



特別支援教育を推進する国家推進ツール

小学校及び中学校と比較すると高等学校及び幼稚園での体制整備が遅れている。

■ 幼稚園 ■ 小学校 ■ 中学校 ■ 高等学校 ■ 幼保一体施設



特別支援教育コーディネーター

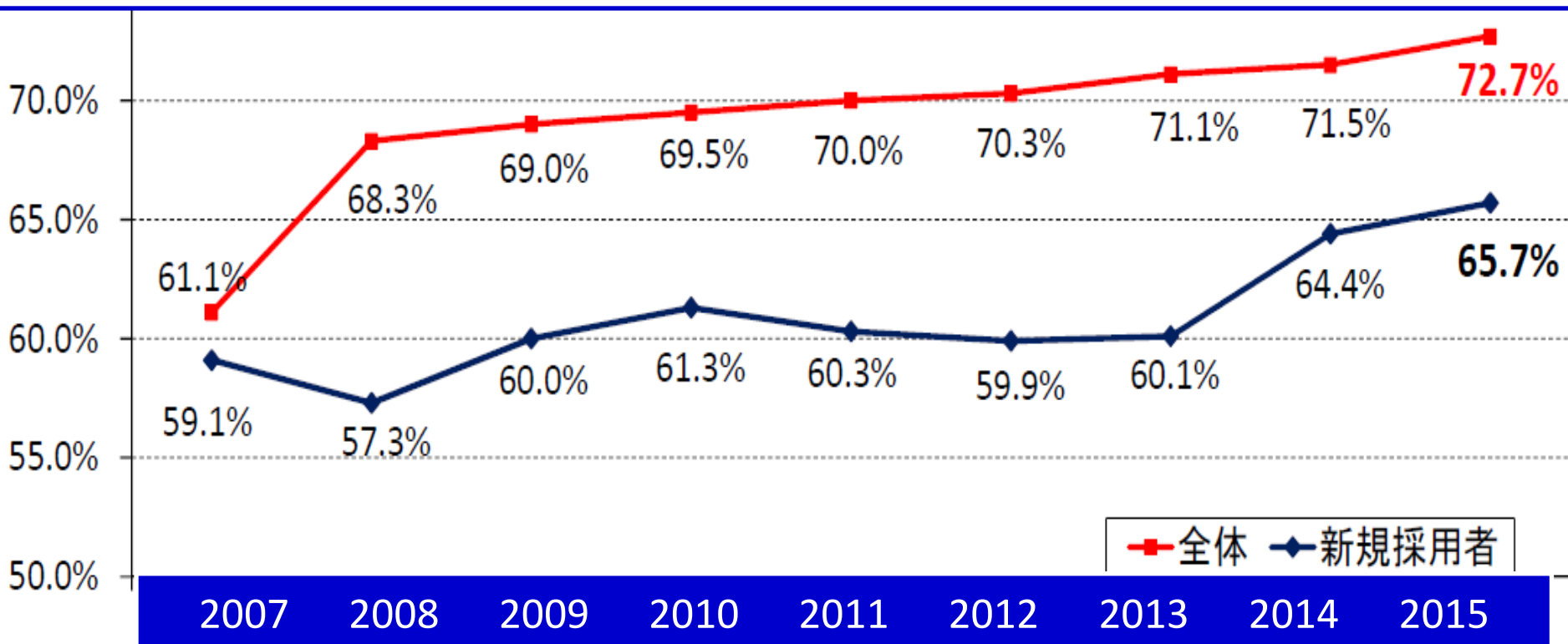
個別の指導計画

個別の教育支援計画

特別支援学校教諭等免許状の保有状況

特別支援学校における免許状保有率は、上昇傾向にはあるものの、未だに72.7%（新規採用者では65.7%）。

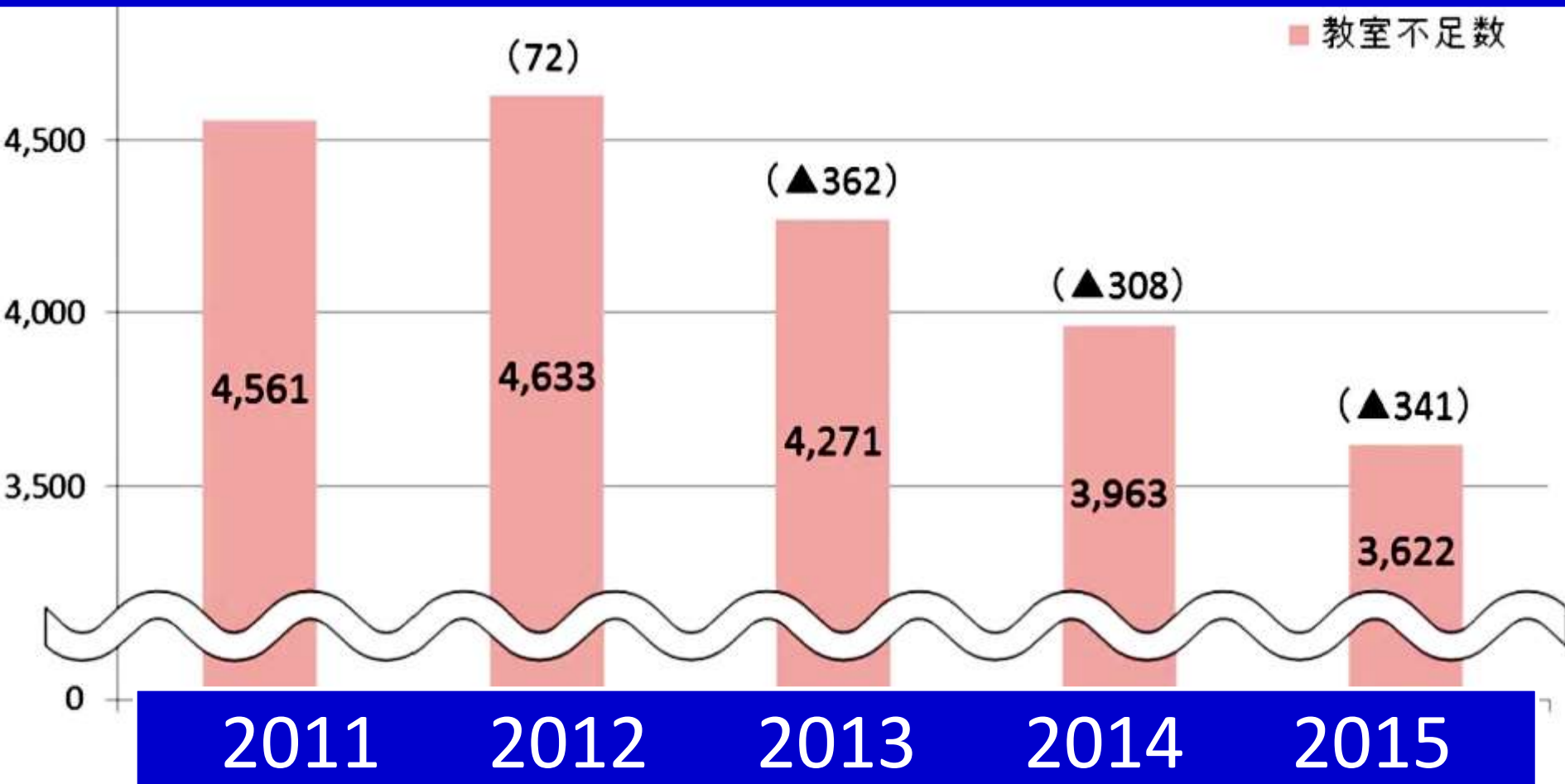
特別支援学校教諭免許状の保有率の経年比較（2006年～2014年）



特別支援学級担任は、当該小中学校免許状に加えて、特別支援学校教諭免許状の保有も法的に必要。しかし、その保有割合は、30.5%

公立特別支援学校における急増による教室不足

児童生徒数の急増により、教室不足は深刻であったが、最近は減少傾向にある。未だに3,622教室が不足。特別教室等の転用、教室等の間仕切り、仮設建物等によって対応。



特別支援学校等就学者の増加原因の考察

- ① 保護者は、障害児は恥ずかしいものではないという「障害児」観を持つようになり、障害のある児童生徒に応じた適切な教育の場を求めるようになってきた。 → **障害児観の変化**
- ② 保護者は、障害を理由にした通常の学級でのいじめや、いじめなどによる不登校を回避するため、少人数で手厚い教育の場を求めるようになってきた。 → **いじめ、不登校の回避**
- ③ 保護者は、保健福祉の早期発見と早期対応による個別の教育支援計画と個別の指導計画等のきめ細かな対応を理解するとともにその効果を理解してきた。 → **適切な指導の実態**
- ④ 保護者は、子供の将来の自立を念頭に、専門的な施設設備や人材がいるとともに、卒業後の支援体制が明確な高等部への就学を希望するようになってきた。 → **卒業後の就労**
- ⑤ 通学費、給食費、教科書費、学用品費、修学旅行費等を補助する特別支援教育就学奨励費制度が、保護者に理解されるようになってきた。 → **経済的な支援体制**
- ⑥ 通常の学級の担任は、まだ障害児を適切に指導する資質・能力が低いことから、特別な指導の場を選択する理由になってきた。 → **インクルーシブ教育制度の未整備**

2 指導する教員に係る課題

2015年度 特別支援学校 学級数、幼児児童生徒数、教員数

学級数					幼児児童生徒数					教員数			
計	幼稚部	小学部	中学部	高等部	計	幼稚部	小学部	中学部	高等部	計	本務者	兼務者	
学級	学級	学級	学級	学級	人	人	人	人	人	人	人	人	計
34,535	500	12,262	8,848	12,925	137,894	1,499	38,845	31,088	66,462	86,011	80,905	5,106	

知的障害高等部の生徒数、学級数が圧倒的に多い

年	児童生徒数	学校数
2006年	104,592名	1,006校
2007年	108,173名	1,013校
2008年	112,334名	1,026校
2009年	117,035名	1,030校
2010年	121,815名	1,039校
2011年	126,123名	1,049校
2012年	129,994名	1,059校
2013年	132,570名	1,080校
2014年	135,617名	1,096校
2015年	137,894名	1,114校

近年、増加している生徒は、知的障害高等部生である。
10年間で100校の知的障害高等部校が新設された。

特別支援学校一種免許養成大学
184校で、教員養成

学校増に対応するため、新採用教員が急増 ⇒ 資質の低下？

校長としての教員に対する課題

①指導力、専門性の維持向上、人材育成	621 校98.9%
②キャリア教育の視点での授業づくり	268 校42.7%
③小中高の連続性・一貫した教育課程	177 校28.2%
④個に応じた指導・発達障害への対応・教育課程の類型化	169 校26.9%
⑤高等部での生徒指導・軽度の生徒への対応	127校20.2%
⑥児童生徒の増加・教室不足・大規模化	86 校13.7%

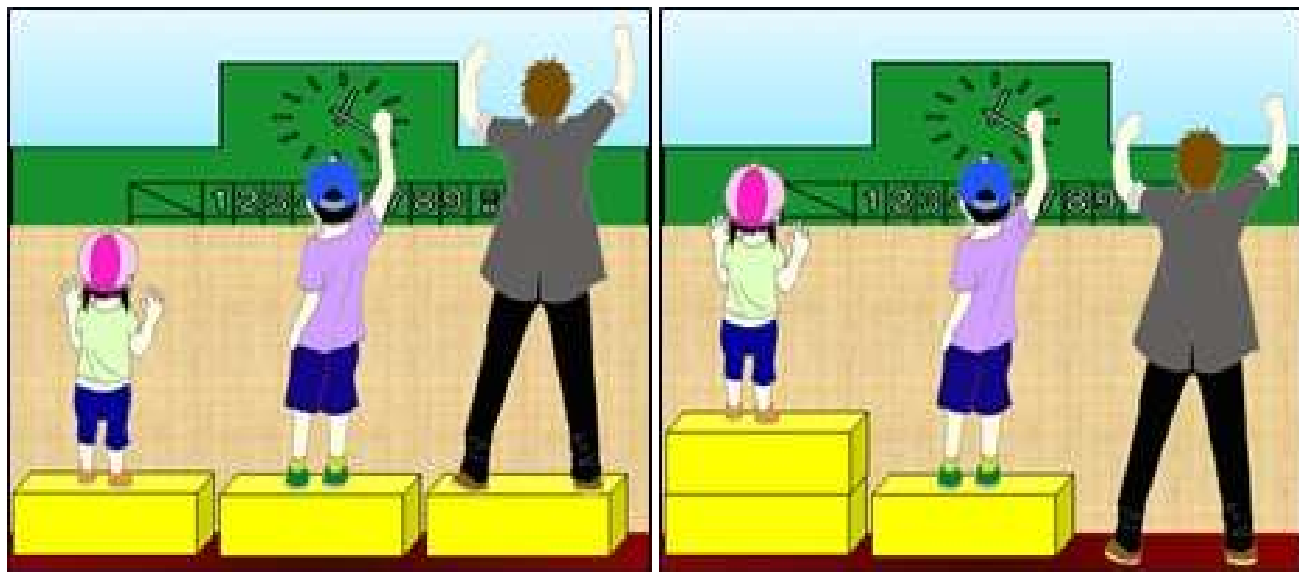
指導力、専門性の維持向上、人材育成の視点 1

教育養成、現職研修で、個に応じた合理的配慮を熟知

幼児児童生徒個々の障がいの状況等を踏まえて、将来、地域の中で円滑に生活できるよう、個々に応じた指導内容・方法、評価を創意工夫することの大事を身に付けさせる。

合理的配慮

Reasonable Accommodation

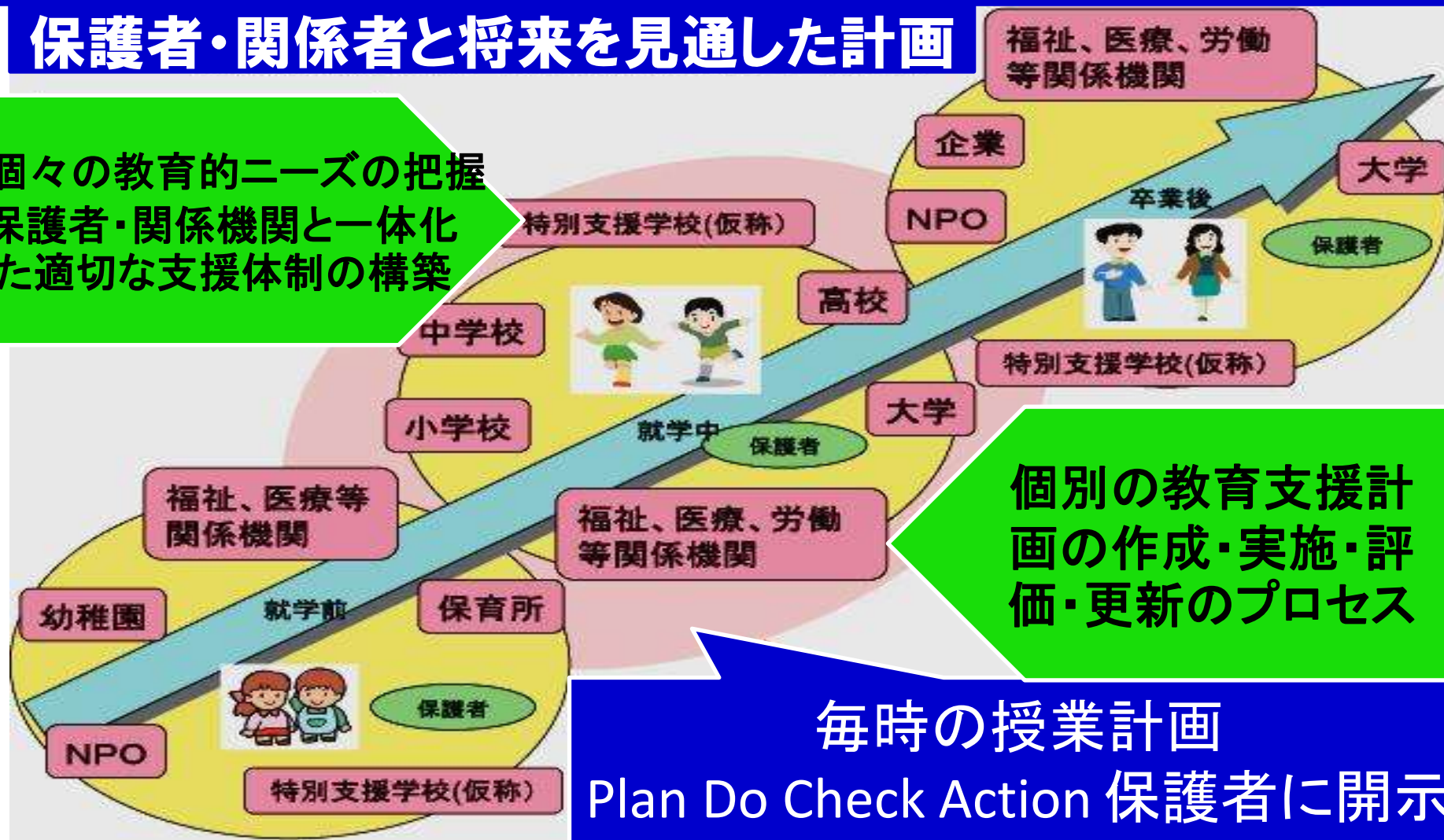


指導力、専門性の維持向上、人材育成の視点 2

個に応じた指導・支援のため、保護者・関係機関等と将来を見通した計画と、毎時の授業計画を作成 ⇒ 開示

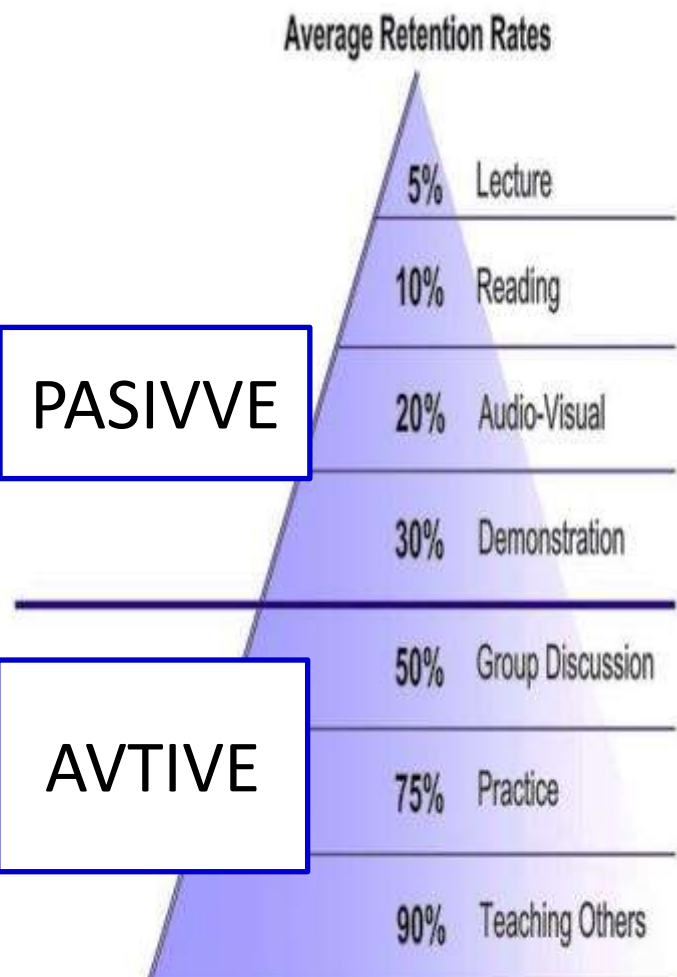
保護者・関係者と将来を見通した計画

- ・個々の教育的ニーズの把握
- ・保護者・関係機関と一体化した適切な支援体制の構築



指導力、専門性の維持向上、人材育成の視点 3

児童生徒が授業にアクティブに参加するよう工夫する



米National Training Laboratories が、2週間後の平均学習定着率を調査

主体的な学び

学ぶことに興味や関心を持ち、見通しを持って粘り強く取組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる学び。

対話的な学び

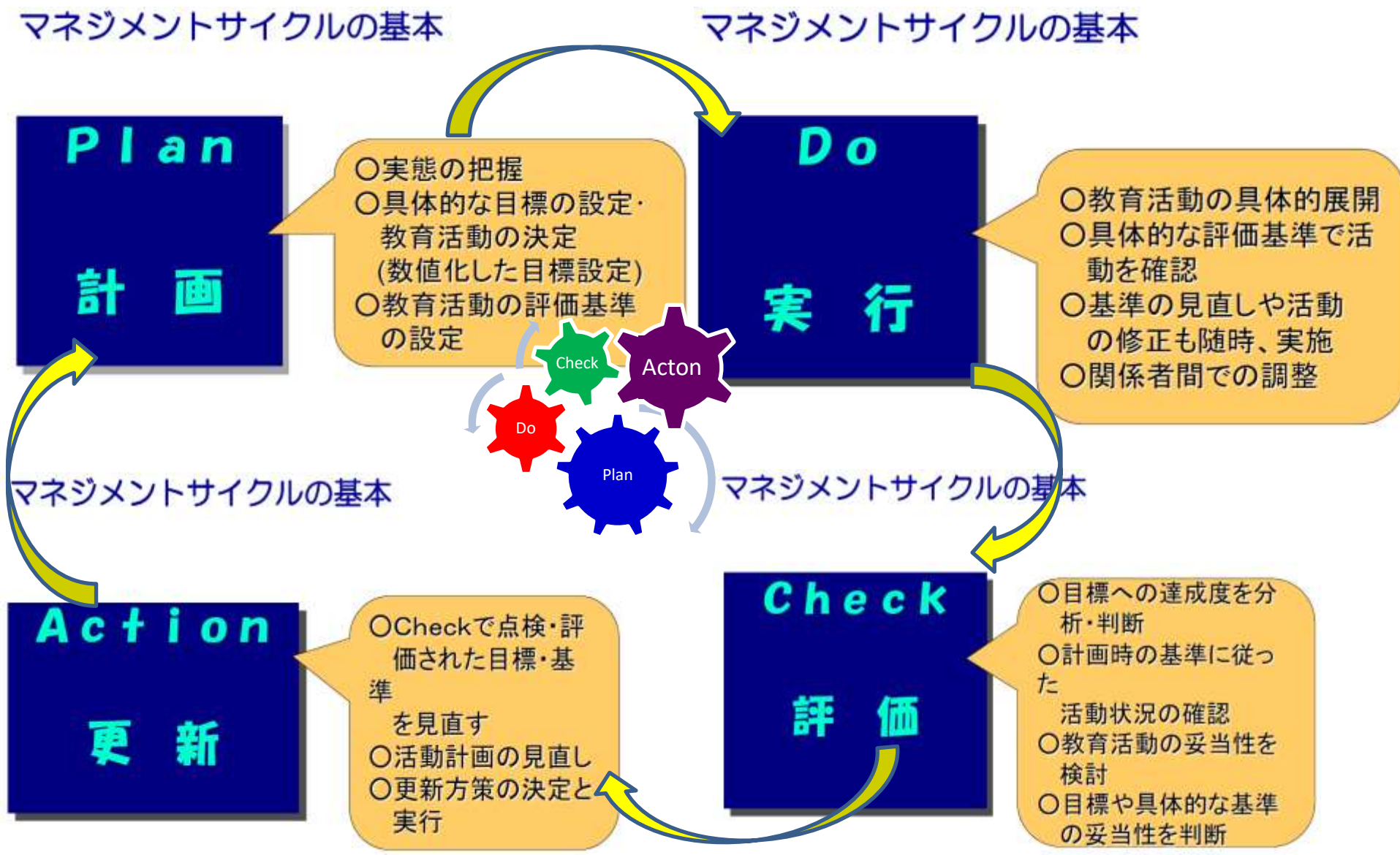
児童生徒同士の協働、教員や地域の人との対話、書物から学ぶことなどを通じ、自らの考えを広げ深める対話的な学び。

深い学び

習得・活用・探究の見通しの中で、見方・考え方を働かせて思考・判断・表現し、学習内容の深い理解や資質・能力の育成につなげる学び。

指導力、専門性の維持向上、人材育成の視点 4

計画・実践・結果評価・更新のマネジメントサイクルの実施



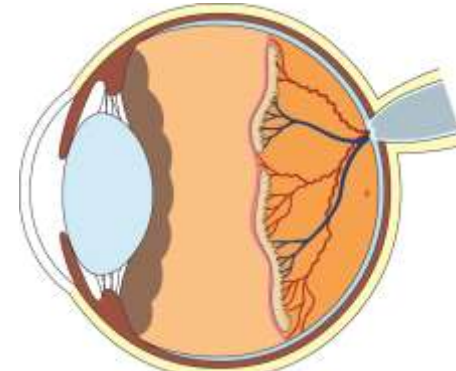
3 特別支援教育の原点

未熟児網膜症

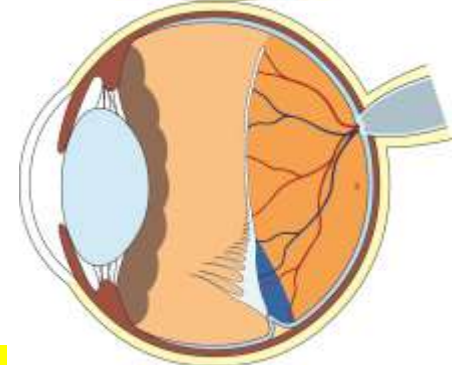


<http://www.getlinkyoutube.com/watch?v=iT1PDGj5czE>

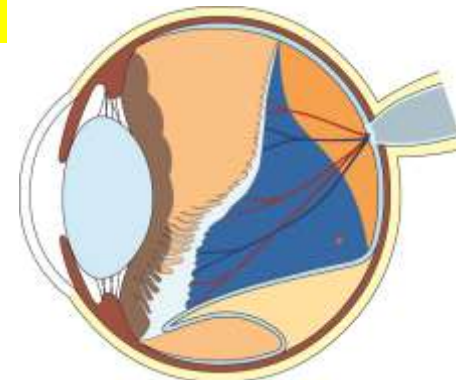
出生が早いほど広範囲に網膜血管の未熟な状態が残るため、網膜は酸欠状態に陥り、それを補おうと新たな血管が生まれて硝子体の中に増殖する。 進行すると網膜を牽引することによって網膜剥離が起こる。



血管増殖の発芽



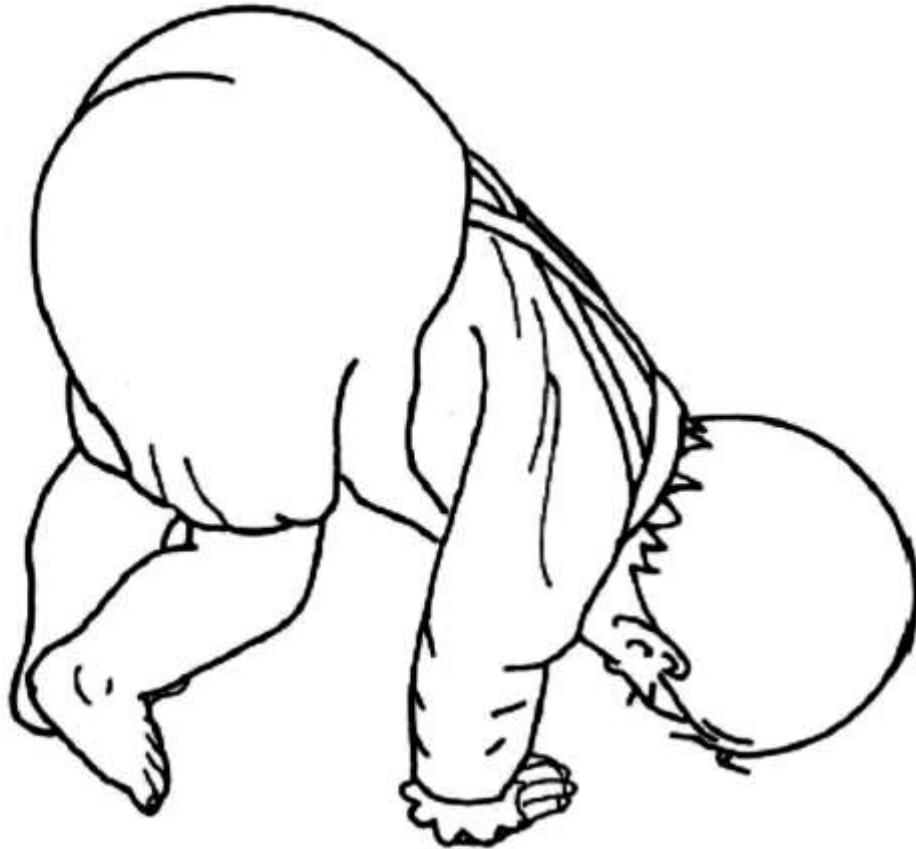
増殖進行と網膜剥離(青色)の始まり



高度な網膜剥離(青色)

国立研究開発法人国立成育医療研究センター
<https://www.ncchd.go.jp/hospital/sickness/children/retinopathy.html>

未熟児網膜症児の指導事例



8그 후
その後の発達

1 실태파악

実態把握

2지능의 정도

知的発達の程度

2양손으로 돌보는 보행

両手でサポートとする歩行

3앞에서 말을 거는 보행

前で補助する歩行

4계단보행

階段歩行

5앞에서 부르는 보행

前方での音声歩行

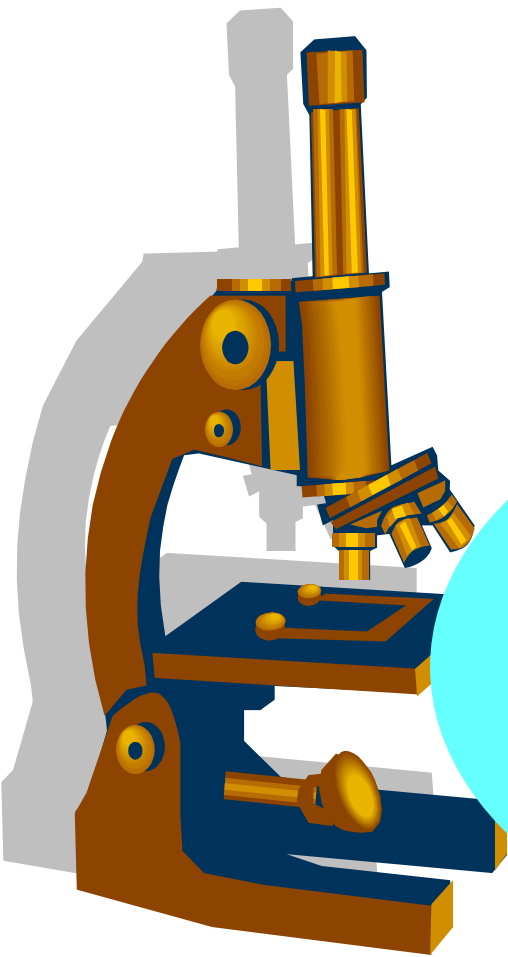
6또, 머리로 걷는 아이가

また、頭で歩く子が

7지능의 정도

知的発達の程度

특별지원교육의 교육원리1 特別支援教育の教育原理1



어린이가 할 수 있는 일을
열심히 찾을 수 있게 되면,
인정하고 칭찬한다
子どものできることを
一生懸命、探す、できたら、認め、
誉める

할 수 있는 일을,
더욱 더 할 수 있도록
활용하고, 넓히고,
깊게 한다
できることを、
さらに、できるように
活用し、広げ、深める

가정과
함께
家庭と
共に

가장 좋은 교사는 어린이와 함께 웃는다.
가장 나쁜 교사는 어린이를 비웃는다.
最も良い教師は、子どもと共に笑う
最も悪い教師は、子どもを笑う

교육 내용:동일성 教育内容：同一性

학생지도적 내용은, top down 에서
生徒指導的内容は、トップダウンで

학습 지도적 내용은, bottom up에서
学習指導的内容は、ボトムアップで

장애의
유무를
초월한
변하지
않는 내용
障がいの
有無を超え
た不易内容

교육 방법:개별성 教育方法：個別性

아는 기쁨으로, 자기긍정감을
分かる喜びで、自己肯定感を

확실한 누적으로, 성장의 증거를
確かな累積で、成長の証を

장애의
상황을
근거로 한
개별방법
障がいの状
況を踏まえ
た個別方法